

日本における移民の社会統合の課題
—— 旧ソ連諸国からの在日ロシア語圏男性移住者を事例として ——
Challenges of Social Integration of Migrants in Japan: The Case of Russian-Speaking Men from the
Former Soviet Union

キム・ヴィクトリヤ (立命館大学)、ムヒナ・ヴァルヴァラ (上智大学)、
ゴロウィナ・クセーニヤ (東洋大学)
KIM, Viktoriya (Ritsumeikan University), MUKHINA, Varvara (Sophia University),
GOLOVINA, Ksenia (Toyo University)

キーワード：社会統合、結婚、在日ロシア語圏男性、市民権、多様性

1. 背景 過去 40 年間、日本は高齢化、少子化、経済衰退、税収減に直面してきた。人口減少に対処する一つの方法は、移民の受け入れだと考えられている。近年、在留外国人数は増加し、2022 年には 299 万人に達した。日本政府は労働力不足に対処するために在留資格を巡る手段の拡充を検討している。こうした変化は日本にとっての労働力確保の面で重要視されているが、在留外国人の状況は、社会統合や市民権の視点からも考慮されるべきである。特に、在留外国人の長期的な定住過程や受け入れ体制の課題は大きい。また、文化・階級・エスニシティの異なる移民の流入は、地域社会の多様化を助長しており、それらの移民達の社会統合プログラムが必要とされている。本報告では日本におけるロシア語圏男性の事例に注目し、外国人男性の社会統合や定住課題を考察する。

日本における移民の社会統合の現状を理解するためには、外国人住民が過去に統合と定住をどのように経験してきたかを検証する必要がある。また、これまで十分に注目されてこなかった移民のカテゴリーについても探求する必要があるであろう。アジア、とりわけ日本における女性移民については、主に結婚という観点から広範な研究が蓄積されているが、現地の女性と結婚する男性移民に関する研究は不足している。移民女性は、しばしば、婚姻によって受け入れ国への統合を実現する唯一のアクターとして描かれるが、これは方法論的な不均衡が生じていると言っていだらう。実際には多くの移民男性も移住前後に受け入れ国の女性と結婚しており、日本における移民男性の結婚、また結婚が彼らの社会統合に与える影響を調査することは、移民の社会統合の現状をより包括的に理解するために不可欠である。本報告は移民の社会統合や市民権の課題を背景として、移住当事者のジェンダー役割に対する期待と移民制度との相互作用、そしてそれらが与える男性の経験や主体性、選択肢、日本への長期定住への影響を明らかにすることを目的とする。

2. 方法 本報告では、日本人女性と結婚した在日ロシア語圏男性の、雇用機会、家庭内のジェンダー関係、民族的・地域的な繋がり等の側面に焦点を当て、男性移民が日本でどのように定住し、社会に適応していくかを考察する。本研究の 3 人の著者らは、主に在日ロシア語圏女性を対象に、長年に渡り 150 人以上に対しインタビュー調査と参与観察を行ってきた。本稿では、20 人¹の在日ロシア語圏男性のインタビューの中から、日本女性と結婚している 12 人のデータを、受け入れ国の男性と結婚した在日・在韩国ロシア語圏女性を対象としたキムとイエムの統合モデル (Kim&Yem 2023) に新たな項目を追加したものを用い、分析する。キム&イエムモデルは、社会統合の段階を移住前、移住初期、定住、長期定住の 4 つの段階に分け、教育や言語能力、性別役割期待、スキル、自立能力等全 15 項目の要因によって受け入れ社会への統合の度合いをそれ

¹ コロナ前の 2019 年 12 月の法務省の統計では、旧ソ連の国々からの在留外国人の 17594 人では、男性の割合は 43%であった。

ぞれ計り、「①順調」「②複雑」「③困難」という統合シナリオに分類している。前述の研究における分析結果は、言語学習と受け入れ側の支援が統合を助け、人的資本も影響を与えるが、性別役割分担が社会的ネットワークと仕事の機会を制限し、受け入れ国と母国での家族関係が定住過程に影響を与えることを示している。離婚、失業、社会的ネットワークに繋がれないことなどが社会統合を阻んでいることも課題として挙げられ、移民と受け入れ社会との協力的な統合努力の重要性が浮き彫りになっている（前出）。

3. 結果と考察 在日ロシア語圏男性を対象とした調査の結果、インタビューから浮び上がった課題を反映し、キム&イェムモデルに以下の項目を追加した。「移住初期」の段階では「在留資格の取得過程」と「アイデンティティ」、「定住」では「民族的繋がり」、「長期定住」では「生活環境（住宅等）」と「健康」である。「①順調」の統合シナリオでは、殆どの場合、移民男性は奨学金等を取得し日本で大学院等を修了するなどの受け入れ側からの手厚い支援を受け、教育や在留資格、今後のキャリアパスといった構造的な観点から統合を支えられたことが見えた。高度な専門知識を必要とする職業に就くことに繋がる「①順調」と分類したシナリオ以外では、程度は異なるものの、男性の在留資格や住宅環境、また仕事の継続可能性、家庭全体の経済的状況は日本人妻の構造的・社会的・感情的関与に依存していることがわかった。「②複雑」のシナリオに該当する一部の男性達は、被雇用者とならず、自らクリエイティブな職業や観光業等のエスニックビジネスを行っているが、妻達は通訳者や秘書の役割を果たし、役所との交渉等も担っており、彼らの場合も日本人妻からのサポートが不可欠であることが明確になった。

性別役割期待に関して、殆どの男性が「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という価値観を持っており、日本人妻の価値観と大きな違いはなかった。しかし、移民制度の制約等により労働市場への十分な参加ができなかった男性は、主要な稼ぎ手としての役割を果たせないことに対して葛藤を抱えており、「③困難」と分類したケースでは、こうした葛藤によりアルコールに逃避した男性もいる。また、在日ロシア語圏移住者のコミュニティとの関係が強い程、受け入れ社会への統合が成功する傾向が見られ、民族的な繋がりやポジティブな役割を果たすことが明確となった。更に、「白人性」をめぐる対象者のアイデンティティについても興味深い結果が出た。この点、先行研究では、白人性はコスモポリタンとしてのイメージには繋がるものの、日本社会では通用しない資本であることが示されているが、白人性のメリットに対する移民当事者自身の信念が強ければ強いほど、統合が「①順調」に進む可能性は高くなる傾向が見られた。

結論として、「①順調」のシナリオ以外では、社会統合とそれに伴う市民権は主に日本人女性との結婚状況に依存していることや、移民男性の場合も「婚姻市民権」²の存在が大きな役割を果たしていることが浮き彫りになった。また、移民制度の観点からは、高度な技能を持つ者以外は、労働力としての能力や希望、また社会を活性化させる多様な可能性を持つ男性達が社会統合において制約を受けていることが明らかになり、日本人妻に負担を押し付けるのではない形の社会統合プログラムの発展や、異なる状況やスキル、ニーズに対応する移民制度の必要性が明確になった。

参考文献

Kim, V. & N. Yem. 2023. "Integration of International Marriage Migrants: Russian-Speaking Female Marriage Migrants in Japan and South Korea," *Asian Pac Migr J*.

² 移住者がホスト国の国民と結婚することにより付与される、権利や責任、義務を定める法的地位。